

インターロッキングブロック各種

製品名	スタンダード	透水	保水	保透水	遮熱	研磨	ショット
グラニュー	●	●	●	●	●	●	●
ラフ	●	●	●	●		●	●
i 5		●	●	●		●	●
ノーマル	●		●	●			●
C three	●	●	●	●			●
L three	●	●	●	●		●	●
ピッコロ		●					
カラケン		●	●	●		●	
リンクル		●	●	●			●
ウッディ	●	●	●	●			
グラス	●						●
クラピア	●						●
車道統一型	●	●					
点状・線状	●	●	●	●			●

PRODUCT STANDARD 製品規格

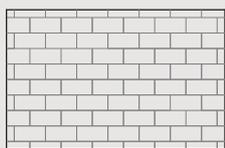
名称 形式	タウン		コスモ 150	コスモ 200	アルク	ナロー
	N 型	S 型				
形状						
割付寸法 (m/m)	l	200	150	200	200	250
	w	100	150	200	300	50
重量 (Kg/個)	h	80	80	80	80	80
		60	60	60	60	60
使用量 (個/m ²)		3.4	1.7	3.9	7.0	10.5
		2.5	1.2	2.8	5.3	7.8
		50	44.5	25	16.7	80

名称 形式	平 板					地先境界ブロック
	300×300	600×300	750×750 (目地なし)	750×375 (目地なし)	375×375 (目地なし)	
形状						
割付寸法 (m/m)	l	300	750	750	375	600
	w	300	300	750	375	120
重量 (Kg/個)	h	80	80	80	80	120
		60	60	60	60	60
使用量 (個/m ²)		16	32	100	50	25
		12	24	50	25	20
		11.1	5.6	1.8	3.6	7.1

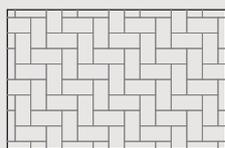
名称 形式	リンクル	ボンコ		グラスインターボンコ	
		N 型	S 型	L	I
形状					
割付寸法 (m/m)	l	300	240	240	153
	w	300	120	120	58
重量 (Kg/個)	h	80	80	80	80
		60	60	60	60
使用量 (個/m ²)		14	5.0	2.5	6.6
		11	3.7	1.8	18

PATTERN

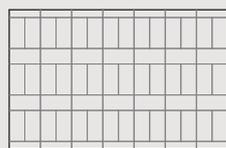
パターン見本



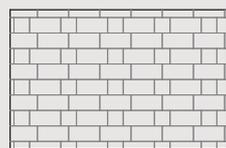
TN-1



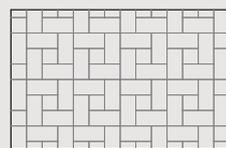
TN-2



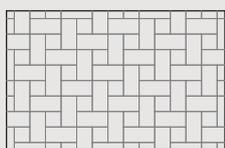
TN-3



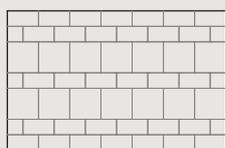
TN-4



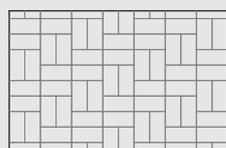
TN-5



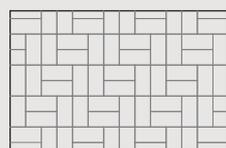
TN-6



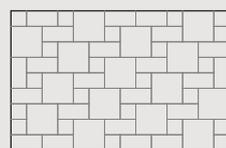
TN-7



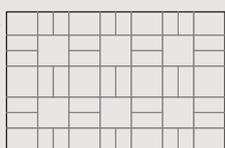
TN-8



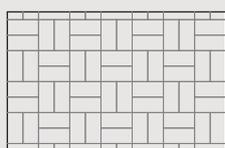
TN-9



TN-10



TN-11



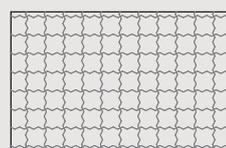
TN-12



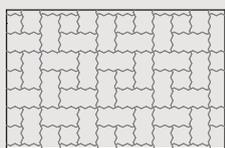
BN-1



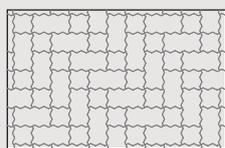
BN-2



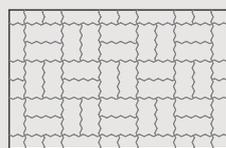
BN-4-S



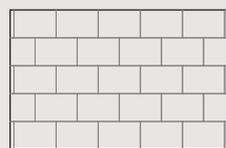
BN-5



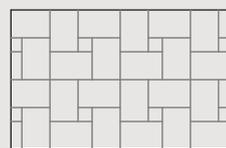
BN-9



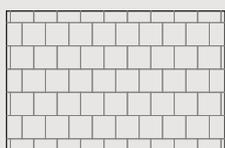
BN-12



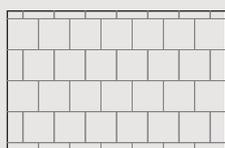
AL-1



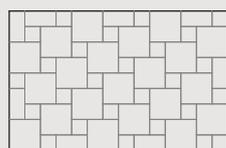
AL-2



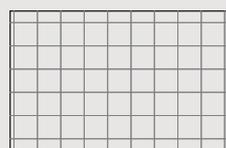
CO-1-A



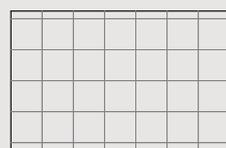
CO-1-B



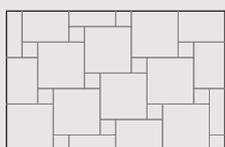
CO-2



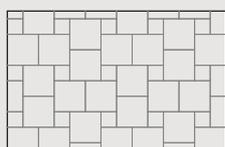
CO-3-A



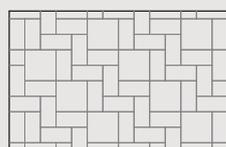
CO-3-B



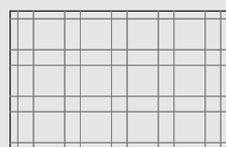
CO-4



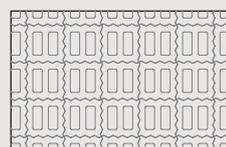
CO-5



CO-6



CO-7



GRB-1

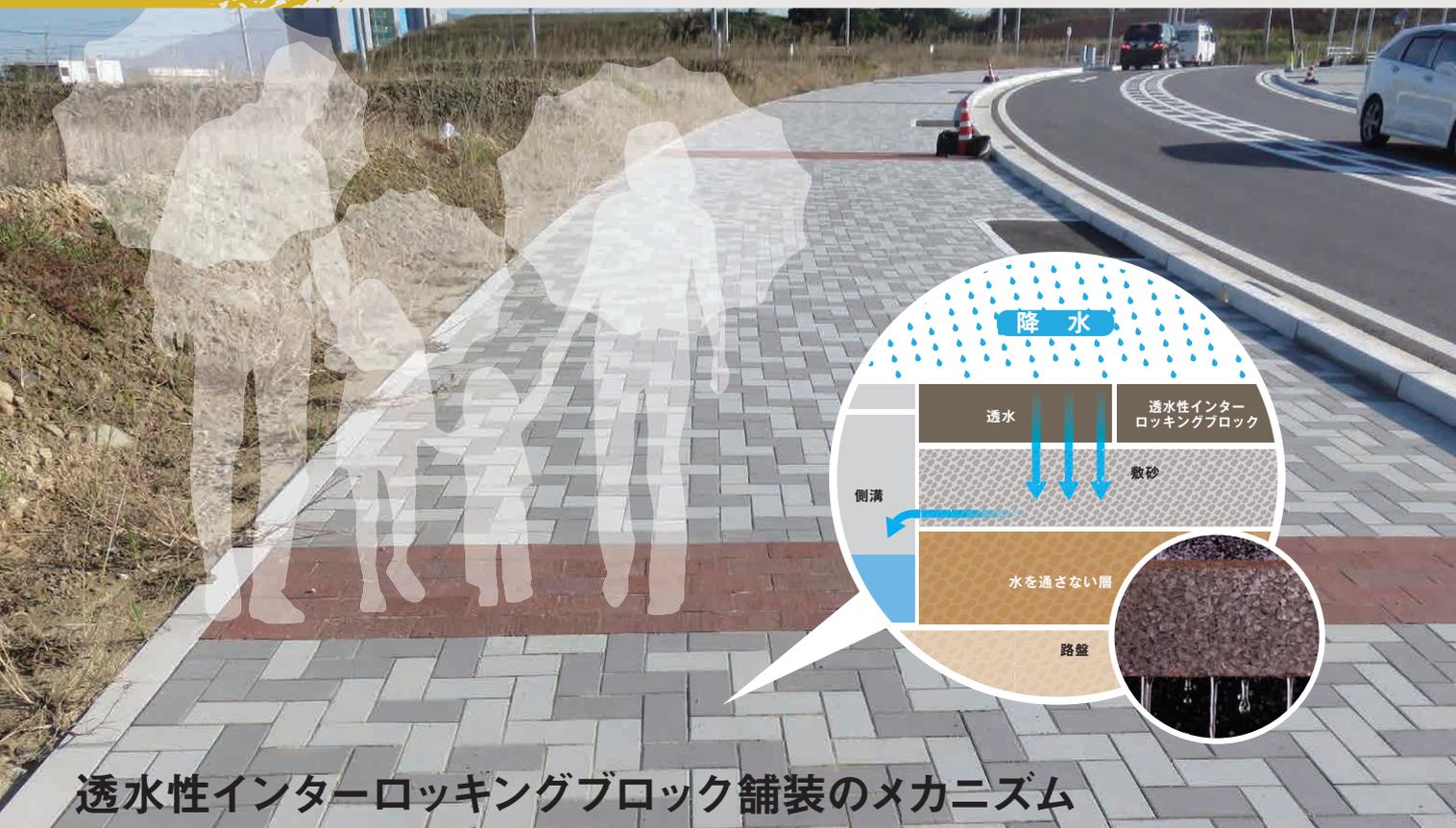
その他パターンについてもお申し付け下さい。

機能性

透水 受注生産

ポーラス状のコンクリートが
雨水を表面に留めることなく
速やかに地中に還元します。

- ①雨水を速やかに地中へ還元、草木の育成を助けます。
- ②水たまり、水はねを抑えるので歩きやすくなります。
- ③空隙が大きく蓄熱性が小さいため、都市部のヒートアイランド現象の緩和に効果があります。
- ④カラフルパターンでさまざまなエリアに合ったデザインが可能です。



透水性インターロッキングブロック舗装のメカニズム

PRODUCT STANDARD 製品規格

歩行者系道路の場合

	透水係数	曲げ強度
規格値	1.0×10^{-2} cm/秒以上	3.00MPa 以上

車道の場合

	透水係数	曲げ強度
規格値	1.0×10^{-2} cm/秒以上	5.00MPa 以上

機能性

保水（低熱型）受注生産

路面温度の上昇を抑える製品です。

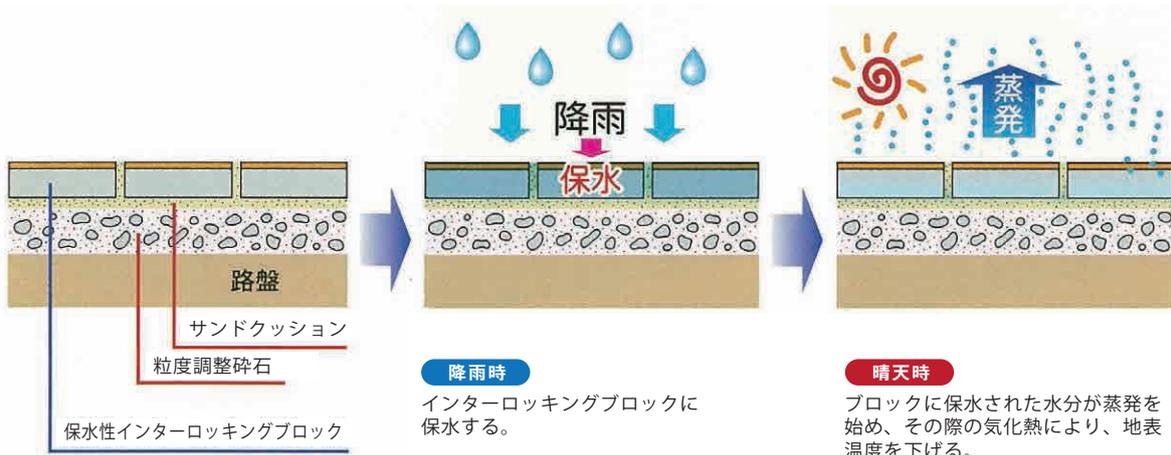
雨水や打ち水により蓄えられた水分が蒸発する際、気化熱が奪われることにより、路面温度の上昇を抑える機能を持つ舗装材です。

JIPEA
クールブロックパイプ® 認定
CBP-JIPEA保水1502号

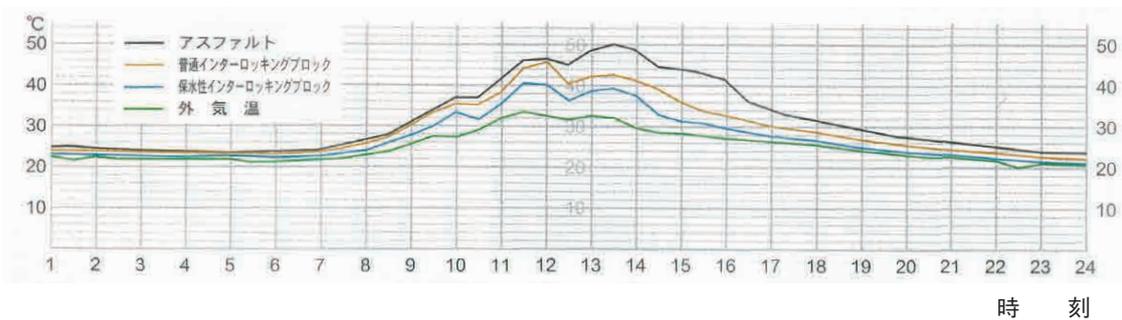


- ①水分を吸収、保水するため打ち水効果が持続します。
(持続期間約一週間)
- ②夏季の歩行空間や沿道の体感温度を下げる効果があります。
- ③ヒートアイランド現象の緩和が期待出来ます。
- ④保水能力以上の水分は、地中に浸透します。
- ⑤環境省も熱中症対策の一手段として保水性舗装を推進しています。

MECHANISM 路面クールダウンのメカニズム



舗装路面の温度履歴（測定時期 6月 降雨後、連続晴天6日目の例）



PRODUCT STANDARD 製品規格

	曲げ強度	保水量
規格値	3.00 または 5.00MPa 以上	0.15g/cm ³ 以上

機能性

遮熱 受注生産

路面温度の上昇を抑える
製品です。

明色系天然骨材と表面研磨加工により太陽熱
(近赤外線)を効率よく反射、路面温度の上昇
を抑え、都市部の高温化現象を抑止します。

JIPEA
クールブロックペイブ® 認定
CBP-JIPEA保水1503号



- ① 遮熱効果が長期間持続します。
- ② 路面の蓄熱温度が低下するため、昼間の日射病防止
及び夜間の熱帯夜問題対策に有効です。
- ③ 研磨加工された表面が周囲の自然環境に溶け込み、
景観性を損なう心配がありません。
- ④ 遮熱効果発揮のための散水、給水等は不要です。
- ⑤ オプションで保水性インターの保水機能を併用させることにより、
さらなる温度低減効果が期待出来ます。

MECHANISM 路面クールダウンのメカニズム

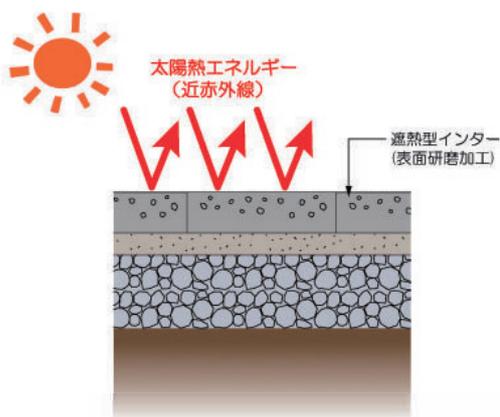
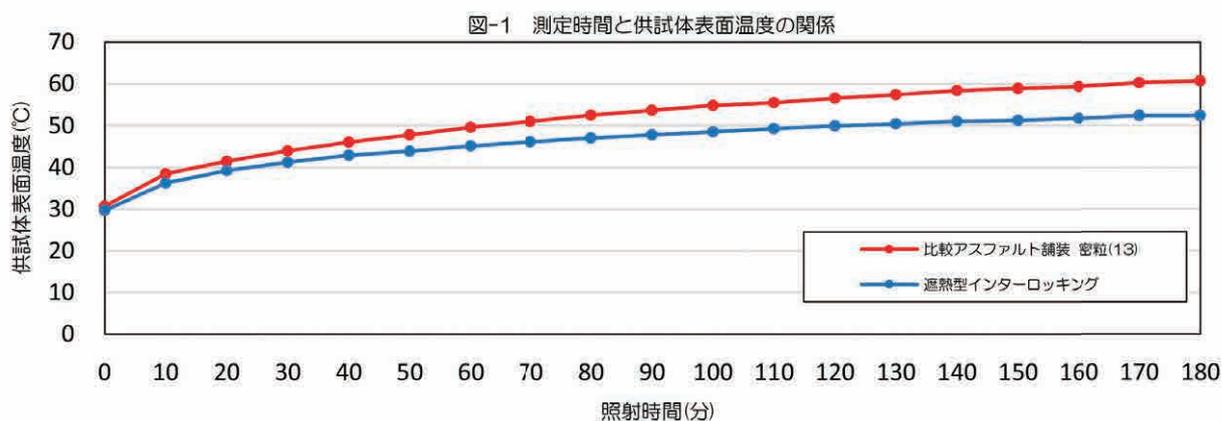


表-1 路面温度低減地

供試体種類	t ₁ 比較舗装	t ₂ 供試体 (対象舗装)
	密粒度アスファルト 混合物 (13)	遮熱型 インターロッキング 明度 L : 61
3 時間照射後の表面温度 (°C)	60.7	52.4
t : 路面温度差 (°C)	—	8.3

※ t = t₁ - t₂



(1) 試験方法

○本試験方法は、舗装性能評価法、別冊 ((2) 路面温度低減値を求めるための照射ランプによる供試体表面温度の測定法) に準じて行った。

(2) 恒湿恒温室の設定および供試体の養生方法

○比較供試体、遮熱性インターロッキングは、恒湿恒温室の室温を 30 ± 1°C に設定した室内で供試体を 5 時間以上養生後、試験を実施。

IL3、IL4（普通道路）の舗装構造例

記号	交通量区分		設計期間 (年)	設計CBR (%)	ILブロック層(cm)		上層路盤(cm)			下層路盤 (cm)	合計厚 (cm)	T'A	必要 TA		
					ブロック	敷砂	瀝青 安定処理	セメント 安定処理	粒度 調整碎石	クラッシュ ラン					
IL3	N ₁	粒状路盤	10	3	8	2	—	—	7	7	24	12.2	9		
				4	8	2	—	—	7	7	24	12.2	9		
				6以上	8	2	—	—	8	—	18	10.8	8		
			20	3	8	2	—	—	7	7	24	12.2	10		
				4	8	2	—	—	7	7	24	12.2	10		
				6以上	8	2	—	—	8	—	18	10.8	9		
	N ₂	粒状路盤	10	3	8	2	—	—	7	7	24	12.2	12		
				4	8	2	—	—	7	7	24	12.2	11		
				6以上	8	2	—	—	8	—	18	10.8	10		
			20	3	8	2	—	—	8	10	28	13.3	13		
				4	8	2	—	—	7	7	24	12.3	12		
				6	8	2	—	—	9	—	19	11.2	11		
	8以上	8	2	—	—	8	—	18	10.8	10					
		N ₃ 注1	瀝青 安定処理	10	3	8	2	5	—	—	12	27	15.0	15	
					4以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	14	
	20			3	8	2	5	—	—	20	35	17.0	17		
				4	8	2	5	—	—	12	27	15.0	15		
				6以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	13		
8以上				8	2	5	—	—	10	25	14.5	13			
IL4	N ₄ 注2	瀝青 安定処理	10	3	8	2	8	—	—	19	37	19.2	19		
				4	8	2	7	—	—	18	35	18.1	18		
				6	8	2	5	—	—	16	31	16.0	16		
				8以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	14		
			20	3	8	2	10	—	—	20	40	21.0	21		
				4	8	2	8	—	—	23	41	20.2	20		
				6	8	2	5	—	—	20	35	17.0	17		
				8	8	2	5	—	—	16	31	16.0	16		
			12以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	14			
				セメント 安定処理	10	3	8	2	—	15	—	15	40	20.0	19
						4	8	2	—	15	—	19	44	21.0	21
					20	3	8	2	—	15	—	15	40	20.0	20
	4	8	2			—	15	—	15	40	20.0	20			
	N ₅ 注2	瀝青 安定処理	10	3	8	2	5	—	—	12	27	15.0	15		
				4以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	14		
				3	8	2	5	—	—	20	35	17.0	17		
				4	8	2	5	—	—	12	27	15.0	15		
				6以上	8	2	5	—	—	10	25	14.5	13		
				20	3	8	2	10	—	15	19	54	26.0	26	
			4		8	2	10	—	10	18	48	24.0	24		
			6		8	2	10	—	—	20	40	21.0	21		
			8		8	2	8	—	—	19	37	19.2	19		
			12		8	2	7	—	—	14	31	17.1	17		
			20		8	2	6	—	—	10	26	15.3	15		
N ₅ 注2			セメント 安定処理	10	3	8	2	12	—	15	25	62	29.1	29	
	4	8			2	10	—	15	19	54	26.0	26			
	6	8			2	10	—	10	14	44	23.0	23			
	8	8			2	10	—	—	20	40	21.0	21			
	12	8			2	8	—	—	19	37	19.2	19			
	20	8			2	7	—	—	10	27	16.1	16			
	20	3		8	2	—	15	10	25	60	26.0	26			
		4		8	2	—	15	10	17	52	24.0	24			
		6		8	2	—	15	—	19	44	21.0	21			
		8		8	2	—	15	—	15	40	20.0	19			
		3		8	2	—	20	15	19	64	29.0	29			
		4		8	2	—	15	10	25	60	26.0	26			
20	6	8	2	—	15	10	13	48	23.0	23					
	8	8	2	—	15	—	19	44	21.0	21					
	12	8	2	—	15	—	15	40	20.0	19					
	12	8	2	—	15	—	15	40	20.0	19					

注1 交通量区分N₃は、セメント安定処理を使用すると経済性に欠けるため瀝青安定処理の使用を原則とする。

注2 交通量区分N₄、N₅で、設計期間10年、設計CBR4以上の場合と設計期間20年、設計CBR6以上の場合では瀝青安定処理の使用を原則とする。

標準施工断面図

コンクリート平板	
<p>●一般歩道部</p>	<p>●歩行者系道路の車両乗入れ・駐車場部</p> <p>最大積載量6.5トン未満の管理用車両が走行する道路および乗用車程度の乗入れ部・駐車場等</p>
インターロッキングブロック	
<p>●歩行者系道路（歩行者、自転車、車椅子等の走行） 【ノーマル】</p>	<p>●歩行者系道路（歩行者、自転車、車椅子等の走行） 【保水性・保透水性・透水性】</p>
<p>●住宅の駐車場など非公共スペース 【ノーマル】</p>	<p>●住宅の駐車場など非公共スペース 【保水性・保透水性・透水性】</p>
<p>●駐車場部（駐車スペース、車路、出入庫口等） 小型貨物自動車（総重量4トン程度）が1日当たり300台未満の乗入れ 【ノーマル】</p>	<p>●駐車場部（駐車スペース、車路、出入庫口等） 小型貨物自動車（総重量4トン程度）が1日当たり300台未満の乗入れ 【保水性・保透水性・透水性】</p>

白華（エフロレッセンス）について

施工後のモルタルやコンクリート製品、レンガの表面に白い粉状の物質が付着することがあります。この現象は白華（エフロレッセンス）と呼ばれ、モルタル中のアルカリ・カルシウム成分が、侵入した雨水、雪・霜などに溶けて表面に移動し、空気中の炭酸ガスと反応して結晶化したものです。夏期の高温期にはブロックの温度も高くなり内部で蒸発が起るため、白華はあまり発生しませんが、冬の低温期の雨や雪、霜、梅雨時、秋の長雨シーズンなど湿度の高い状態が続くときにはよく発生します。現在この現象を完全に防止する方法は残念ながらありません。しかし万一白華が発生しても、製品、施工上の欠陥ではなく耐久性が低下してしまう事はありません。なお、白華は除去しなくても時間の経過とともに、雨などにより流されて消えます。気象・環境条件により異なりますが、自然に白華が消えるまでの期間は2年以上かかることが多いです。

* 白華になった場合の対処法

- ・打ち水をします。（水を十分吸収させてください）・金ヘラなどで白華をそぎ落とし、残った部分は水洗いをした後希釈酸（トイレ用洗剤）で洗い十分水で洗い流します。
- ・白華が薄い場合は、ナイロンブラシやワイヤーブラシで2～3回軽く押さえながらこすり落としください。その後は希釈酸で洗い、十分水で洗い流します。